

動乗勤改悪阻止・3・25三里塚にむけ 闘う体制を強化しよう

「59・2」ダイ改をめぐる闘いは、職場闘争と結合した連日の交渉で当局を追い込んできましたが、一月三日深夜のトップ交渉において一定の前進を確認し、大筋了解しました。

当局・革マルという二重の反動との闘い

「59・2」は貨物部門の大合理化、旅客輸送の効率化、荷物営業の縮小等により、全国で二四〇〇〇名、千葉局で四二五名の要員を削減する攻撃として、国鉄二〇万人台体制の実現と国鉄労働運動解体の突破口をなす攻撃です。

動労千葉は、第八回定期大会で確認した「国鉄と三里塚を基軸に反動・中曾根と対決する」方針にふまえ、「10・9三里塚」「11・9レーガン米日阻止」「総選挙闘争」等の闘い、さらには職場における「職場規律の確立」攻撃と対決する闘いと結合させ、団体交渉を軸に闘ってきました。

当局交渉は、臨調答申！国鉄本社方針に従い、提案を一步もゆずらぬ当局の硬直した姿勢と、動労「本部」革マルが「二割三割の働き度アップはクリアしなければならぬ」との「働こう運動」路線のもと、十二月段階で了解してしまうという状況の下で、かつてなく厳しいものとなりました。

とりわけ、千葉地本・土屋一派は当局提案を認めることを前提に、「職場がなくなる者には配転協定を適用されたい」なる要求をいきなり出すという闘争破壊を行って、動労千葉や国労の闘いを妨害する役割を果たしました。

基本要請で一定の前進をかちとる

こうした中で、十二月二十六日、当局は一方的に交渉集約をせまってきました。

これに対して動労千葉は、連日にわたる団体交渉と、「59・2」ダイ改にかかわる電車の配転計画、事前作業の拒否、三六破棄等の職場闘争と結合した闘いによって、十二月二十六日の一方的交渉集約を阻止してきました。

特に、貨物三基地の将来展望、予科採、一般採の動乗養成等の基本要請の解決にむけ全力で当局を追い込んできました。

「十二月二十六日交渉集約」を阻止した上にたつて、一月六日以降、連日にわたる交渉を積み重ね、十一日以降、三六破棄をもって当局を追い込み、

十二日修正提案、十三日深夜の総務部長、運転部長との準トップ交渉を経て、基本要請の貨物三基地の存続については、「機関車関係三基地については、今後とも存続することで最大限努力する」との「運転部長メモ」をひきだし、予科採、一般採の動乗養成について「59・2以降の可能な限り早い時期に行う」との確認を行いました。

当局の狙い「職場の力関係逆転」をはね返す

今日の情勢の中で、動労千葉の闘いは基地問題、養成問題において組合要求を押し込み、「職場の力関係を逆転」せんとする当局の攻撃意図をはね返す等、一定の前進を確認できます。

しかし、臨調！国鉄労働運動圧殺攻撃の強まりや、動労「本部」革マルの裏切りによって、闘いに一定の限界性があったことも否定しえない事実です。

当面するスケジュール

- 22日……船橋市民の会 旗びらき
- 24日……カ3回支部代表者会議
- 25日……スキー大会・講習会
- 27日……カ2回検・修分科定期委
- 28日……カ2回検・修分科定期委
- 31日……退職者教励会
- 2月4日……乗務員分科 研修講座
- 10日……乗務員分科 研修講座

訂正とあひび
『日刊』一五四一号（旗びらき報告）の
写真説明中の「ミッドナイトバリ」とある
のは、「ミッドナイトパニック」の誤りでした。
あひびして訂正いたします。